

**平成26年度**

**北の国・森林づくり  
技術交流発表会**

**平成27年1月29日～30日  
北海道立道民活動センター  
かでのる2・7**

# 平成26年度

## 北の国・森林づくり技術交流発表会スケジュール

----- 1月29日(木) -----

**大会議室(4F)**

1. 開 会 10:00より

2. 北海道森林管理局長挨拶

3. 審査委員紹介

4. 一般発表

### 森林ふれあい部門

プログラム 1~5 10:15~11:30

### 森林技術部門

プログラム 6~7 11:30~12:00

昼食休憩 12:00~13:15

### 高校部門

プログラム 8~10 13:15~14:00

休憩 14:00~14:20

### 森林技術部門

プログラム 11~13 14:20~15:05

休憩 15:05~15:25

プログラム 14~17 15:25~16:25

----- 1月30日 (金) -----

大会議室 (4F)

#### 4. 一般発表

##### 森林保全部門

プログラム 18~20 10:00~10:45

休憩 10:45~11:00

プログラム 21~23 11:00~11:45

昼食休憩 11:45~13:00

5. 特別発表 13:00~15:00

休憩 15:00~15:15

6. 特別講演 15:15~16:05

休憩 16:05~16:20

7. 表彰式 16:20~16:40

(1) 講評

(2) 表彰

8. 閉会 16:50 (予定)

# 平成26年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

かでの2・7 大会議室(4階)

1月29日(木)

1日目

注:氏名欄の○印は発表者

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
1	森 林 ふ れ あ い	<p>地域で考えるポト自然休養林の活用と保全 胆振東部森林管理署 ○若松 ちさと 白老町役場建設課 ○坂本 世悟</p> <p>当署では、平成24年7月から今年度まで、ポト自然休養林の活用と保全について地域関係機関と協議会を設け取り組んできました。休養林施設の利用者アンケート結果報告を中心に、協議会の取組を総括、考察します。</p>	10:15 ～ 10:30
2	森 林 ふ れ あ い	<p>民国連携による地域に根ざした木育活動 ～木の良さを感じてほしい～ 上川中部森林管理署 ○佐々木 真理子 上川総合振興局林務課 ○畠 義博</p> <p>森林管理署、総合振興局等で構成する「木の町あさひかわ木育を進める会」による、子どもたちに木の良さや森づくりの大切さを伝える活動などについて、国と道との人事交流職員の立場から携わったこと、感じたことも交えて発表します。</p>	10:30 ～ 10:45
3	森 林 ふ れ あ い	<p>組織活性化のメソッドについて ー森林ボランティアの運営を通してー 常呂川森林ふれあい推進センター 立野 政信</p> <p>ボランティアの運営を行うにあたって、「自主的に企画運営を含めて活動に参加する」組織運営の方法と「人は何によって動くか」を考察し、運営を進めて行った経過について、失敗談と成功例の個別事案を踏まえて発表します。</p>	10:45 ～ 11:00
4	森 林 ふ れ あ い	<p>柏稜永遠の森、有斗・希望の森 (森林再生ボランティア)の紹介について 渡島森林管理署 藤原 丈一郎</p> <p>平成16年の台風18号によるカリマ国有林の森林被害地の再生に向けた取組(函館大学付属有斗高校・函館大学付属柏稜高校の森林ボランティア及び両校への出前講座)と今後の予定を紹介します。</p>	11:00 ～ 11:15

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
5	森 林 ふ れ あ い	パイロットフォレストの一般開放事例の報告について 根釧西部森林管理署 岩上 浩之  造成から60年近くが経ち、約10,000haの面積を持つパイロットフォレストですが、地域住民の皆さんにはあまり馴染みがないと感じます。そこで、この雄大な造林地の景観と造成の歴史を知ってもらうために、新緑と黄葉の季節にこの森を一望できる望楼を一般開放する催しを行ったので、この事例を発表します。	11:15 ～ 11:30
6	森 林 技 術	カラマツコンテナ苗による低コスト施業実証林について(第1報) 空知総合振興局森林室 田中 泰介  今年度、栗山町の一般民有林に「カラマツコンテナ苗による低コスト施業実証林」を設定し、コンテナ苗と裸苗の植付・下刈工期や成長量を比較検討したことについて報告します。	11:30 ～ 11:45
7	森 林 技 術	天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発 森林技術・支援センター ○友田 敦 (独)森林総合研究所北海道支所 倉本 恵生  これまでの天然更新の手法ではカンバ類の単純な林相になることから、今回、多様な樹種を更新させることを目的として、伐採による照度のコントロールと小面積の地がきを組み合わせた試験を行ったので、その結果を報告します。	11:45 ～ 12:00
<b>昼 食 12:00～13:15</b>			
8	高 校	ササの有効利用 ～森林バイオマスとしてのササ資源の利用～ 北海道旭川農業高等学校 ○佐々木 大地 佐々木 柁哉 工藤 秀斗  ササの繁茂した林地は樹木の侵入を妨げており、育林作業において、ササは大きな障害要因となっています。そこで、ササの刈り払いが進むよう、ササをキノコ栽培の培地にし、その廃菌床を紙として有効利用することで、ササの需要拡大を目指す取組を行ったので発表します。	13:15 ～ 13:30

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
9	高 校	<p style="text-align: center;">無葉緑植物ギンリョウソウと外生菌根菌の 地下部ネットワークの解明 北海道立命館慶祥高等学校</p> <p style="text-align: right;">○越智 匠海 佐藤 直 菅原 麻由 関口 かるな</p> <p>ギンリョウソウは葉緑素を持たない植物であり、根に存在する外生菌根菌(ECM)を介して宿主樹木から養水分を受け取っています。特に3年目の今年度は細分調査からのECM出現頻度を見て、互いの関係は相利共生と考察しました。</p>	13:30 ～ 13:45
10	高 校	<p style="text-align: center;">生物多様性を守るために 北海道札幌旭丘高等学校</p> <p style="text-align: right;">○宇久村 三世 渡邊 未来 片桐 有乃</p> <p>本校生物部はトンネウス沼(札幌市北区あいの里公園)の開削作業に10年前から参加しています。2012年からのトンボ相や植生の調査よりトンボ相の多様性と植生の相関を考察し、先行研究と比較して開削の効果を検証しました。</p>	13:45 ～ 14:00
<b>休憩 14:00～14:20</b>			
11	森 林  技 術	<p style="text-align: center;">民国連携による地域林業の活性化に向けた取組 石狩森林管理署</p> <p style="text-align: right;">○三浦 晋仁 石狩振興局森林室 勇 内次</p> <p>石狩流域におけるこれまでの民有林と国有林フォレスター、地域林業関係者の連携した活動状況と、その活動が共同施業団地設定に結びついた経緯。また、地域で話し合いを進める中で見えてきた今後取り組むべき方向性について整理、分析したのでその内容を報告します。</p>	14:20 ～ 14:35

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
12	森 林 技 術	<p>搬出間伐の低コスト化と集約化 ～地域林業課題の取組～</p> <p>後志森林管理署 ○赤羽根 浩 後志総合振興局森林室 新野 一春 寿都町産業振興課 土開 直樹</p> <p>地域林業課題への民国連携した取組として、①後志総合振興局林務課、森林室普及課と連携して実施した民有林の搬出間伐の功程調査を基に、国有林、民有林の功程結果を比較・分析し、各事業体に生産性向上にむけた改善点を含めて提案した取組、②「共和町」と「寿都町」での低コスト化を推進するための集約化に向けた取組について発表します。</p>	14:35 ～ 14:50
13	森 林 技 術	<p>誘導伐における等高線に沿った伐採帯の設定について</p> <p>網走西部森林管理署 ○片桐 勝美 西浦 哉</p> <p>網走西部森林管理署においては、5年間で約400haの誘導伐を計画的・効率的に実施していくため、低コスト化及び複層林への誘導を考慮し、等高線に沿った伐採帯を設定し、伐採から植栽まで実行したので、その結果を報告します。</p>	14:50 ～ 15:05
<b>休 憩 15:05～15:25</b>			
14	森 林 技 術	<p>道北における一貫作業システムの充実に向けて</p> <p>上川北部森林管理署 ○清水川 一儀 直井 陽代</p> <p>当署で実施した伐採から植栽までの一貫作業システムにおいて、現地調査を行った結果とその問題点を踏まえ、道北に適した資源の有効活用と効果的な造林の作業方法について検討しました。</p>	15:25 ～ 15:40
15	森 林 技 術	<p>コンテナ苗の活用に向けた取り組み ～植付用器具の改良～</p> <p>網走南部森林管理署 ○村田 彰寛 菊地 重治 村辺 寿宏</p> <p>コンテナ苗の活用に向けては、その植付工程の改善も課題の一つとなっています。今回、当署では現地検討会や関係者へのアンケート調査の結果を参考に植付用器具の改良に取り組みました。その成果等について発表します。</p>	15:40 ～ 15:55

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
16	森 林 技 術	<p style="text-align: center;">ミズナラ二次林間伐後の成長推移の一考察 十勝東部森林管理署 朝長 正雄</p> <p>過密となったミズナラ二次林において、密度の違う仕立て方による成長量などの比較を行い、今後の広葉樹施業方法の検討を行ったので、その内容を発表します。</p>	15:55 ～ 16:10
17	森 林 技 術	<p style="text-align: center;">タブレットコンピューターを用いた森林の現地確認手法 檜山振興局林務課 喜多 耕一</p> <p>タブレットコンピューターのGPS機能と無料の地図アプリを使い、既存の森林GISの地図を画面に表示して、現地での自分の位置や施設の位置確認に利用しています。地図アプリの紹介とタブレットの利用事例について発表します。</p>	16:10 ～ 16:25
<b>1日目 終了</b>			



# 平成26年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

かでの2・7 大会議室(4階)

1月30日(金)

## 2日目

注:氏名欄の○印は発表者

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
18	森 林 保 全	<p>治山ダムにおける魚道整備について                      ーカラフトマス・シロザケが溯る豊かな河川を目指してー                      根釧東部森林管理署 新井 伸昌</p> <p>これまで治山ダムに整備されてきた魚道は、魚道内に土砂等                      が堆積するなど十分に機能せず、維持管理を必要としました。そ                      こで、維持管理を要しない魚道への改良を実施し、遡上状況を                      調査したので、その結果を報告します。</p>	10:00 ～ 10:15
19	森 林 保 全	<p>国有林へのスノーモビル乗入れ自粛に係る啓発等の取組                      ～3署合同による取組～                      網走西部森林管理署西紋別支署 ○今廣 佐和子                      上川中部森林管理署 瓜田 元美                      網走西部森林管理署 樋川 昭夫</p> <p>国有林へのスノーモビル乗入れにより造林地や湿原への悪影                      響が懸念されている北見峠及び浮島峠において、平成25年度                      から継続して行っている3署合同での対策について、その取組内                      容や得られた効果等を報告します。</p>	10:15 ～ 10:30
20	森 林 保 全	<p>モデル溪畔林設定に向けた取り組み                      ～日高地方を事例として～                      日高南部森林管理署 松本 三千代</p> <p>森林の持つ多面的機能を高度発揮させるため、森林生態系に                      配慮した溪畔林の保全が求められる中、これまでの事例を踏ま                      え、日高地域におけるモデル溪畔林の設定に向けた取り組みに                      ついて考察したので発表します。</p>	10:30 ～ 10:45

# 休 憩 10:45～11:00

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
21	森 林 保 全	<p>土壌凍結に伴うエロージョンの発生メカニズムについて 釧路湿原森林ふれあい推進センター 網倉 和弘</p> <p>自然再生事業地でササによる被圧を避けるため、ササの根茎まで剥ぎ取る強度の地ごしらえを2009年に行い植栽したところ、2012年に苗木が根まで掘られるエロージョンが発生しました。調査の結果、その発生メカニズムが解明されたので報告します。</p>	11:00 ～ 11:15
22	森 林 保 全	<p>これからの狩猟の担い手 ～森林官ハンターとしてエゾシカ対策を考える～ 網走中部森林管理署 中西 誠</p> <p>近年、エゾシカ数の増加とハンターの高齢化・減少が問題となっています。また、国有林で狩猟事故等が発生しています。そこで、ハンターへのアンケート調査等を行い、森林官ハンターとしての立場から今後の狩猟の担い手について考察しました。</p>	11:15 ～ 11:30
23	森 林 保 全	<p>無人の眼が闇を撮す<sup>うつ</sup> ～野幌森林公園自動撮影機による野生生物モニタリング～ 石狩地域森林ふれあい推進センター 足立 康成</p> <p>野幌森林再生プロジェクトでは、4項目実施しているモニタリングの一つとして野生動物相のモニタリングを自動撮影装置により実施しています。自動撮影装置の紹介と8年間モニタリングしてきた結果について報告します。</p>	11:30 ～ 11:45
<b>昼 食 11:45～13:00</b>			
1	特 別 発 表	<p>木材トレーサビリティ技術を活用した コアドライ品質管理システム (地独) 北海道立総合研究機構林産試験場 石河 周平</p> <p>林野庁補助事業で、山土場から工務店にいたる木材トレーサビリティの情報継承の試行をベースに、木材乾燥の品質管理システムへと展開させ、栗山町ドライウッド協同組合での実用システムとして稼働させました。</p>	13:00 ～ 13:30

順 番	部 門	発 表 題 名・発 表 者・発 表 要 旨	時 間
2	特 別 発 表	<p>北海道における採種園の役割とその改良への取り組み            (独) 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場            中田 了五</p> <p>森づくりに不可欠な良質の造林用種子の生産に国有林の採種園が果たしている役割について、また、よりよい種子を生産するために北海道育種場と森林管理局署が連携して取り組んでいる採種園の改良について紹介します。</p>	13:30 ～ 14:00
3	特 別 発 表	<p>ウダイカンバの衰退・立枯れの発生に            及ぼす成長履歴と食葉性昆虫の影響            (地独) 北海道立総合研究機構林業試験場 大野 泰之</p> <p>近年、ウダイカンバ二次林では、大型の蛾(クスサン)の幼虫が大発生している状況です。本発表では、被害を受けた林分におけるウダイカンバの衰退・立枯れの発生と食害・成長履歴との関係について発表します。</p>	14:00 ～ 14:30
4	特 別 発 表	<p>北海道における作業システムについて            (独) 森林総合研究所北海道支所 佐々木 尚三</p> <p>機械化による低コスト林業や安全作業の実現には、条件に応じた適切な作業システムの選定が不可欠です。本発表では今後の展望も踏まえ、林内走行型、路網活用型作業システムの選定条件とその効果について考察します。</p>	14:30 ～ 15:00
<p><b>休憩 15:00～15:15</b></p>			

# ◎特別講演

15 : 15 ~ 16 : 05

## 「低コスト再造林 技術の開発」

— コンテナ苗と一貫作業システム —

一般社団法人 日本森林技術協会

九州事務所

主任研究員 中村 松三氏

(前森林総合研究所 九州支所長)